

平成29年度事業計画書

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

公益財団法人 奈良先端科学技術大学院大学支援財団は、「奈良先端科学技術大学院大学の持つ斬新かつ優れた特性及び機能を最大限に発揮していただくために、その教育研究活動を支援するとともに、大学院大学と産業界、地方公共団体等との交流を促進することにより、先端科学技術分野の研究開発を担う研究者、技術者等の育成及び研究開発基盤の充実に寄与し、もって我が国の科学技術の発展に資する」という目的を達成するため、平成29年度において下記の事業を実施する。

1. 大学院大学支援事業

大学院大学に対する支援事業については、大学院大学からの申請内容を平成29年3月1日に開催の支援事業選考委員会において審査の上、以下のとおり決定した。

支援総額 33,200千円

(1) 教育研究活動に対する支援

①教育研究活動支援

10名、15,000千円（うち助教6名、11,000千円／博士後期課程学生4名、4,000千円）

氏名	所属・職名	研究テーマ
Sakriani Sakti	情報科学研究科 知能コミュニケーション研究室・助教	ゼロ資源での教師なし音響パターン発見
小林 哲夫	バイオサイエンス研究科 分子情報薬理学研究室・助教	膵管癌細胞における一次繊毛消失の意義と分子機構の解明
高塚 大知	バイオサイエンス研究科 植物成長制御研究室・助教	植物のDNA倍加能力の決定機構の解明
高橋 直紀	バイオサイエンス研究科・植物成長制御研究室・助教	植物の組織再生を支える分子基盤の解明
岡田 豪	物質創成科学研究科 センシングデバイス研究室・助教	中性子イメージングを目的としたSm添加蛍光体材料の開発
谷本 裕樹	物質創成科学研究科 反応制御科学研究室・助教	マルチアジドの高位置選択的変換による多彩なクリック官能基の導入法
渡部 宏樹	情報科学研究科 知能コミュニケーション研究室・D2年	調音活動想像時の脳波を利用したコミュニケーション支援システムの開発
伊藤 秀矩	バイオサイエンス研究科・腫瘍細胞生物学研究室・D2年	造血前駆細胞から白血病幹細胞への転換におけるエネルギー代謝機構の解明
若狭 瑞帆	バイオサイエンス研究科・遺伝子発現制御研究室・D2年	神経伝達を介した器官形成制御機構の解明
橋元 祐一郎	物質創成科学研究科 光情報分子科学研究室・D3年	分子スイッチングによる巨大な円偏光発光のON-OFF制御

②新任教授スタートアップ支援

新任教授が研究体制を整備して研究活動をスムーズに始められるよう支援する。

5名、7, 500千円

氏名	所属・職名	研究テーマ
門林 雄基	情報科学研究科・教授	サイバーレジリエンス構成学に関する探索的研究
清川 清	情報科学研究科・教授	対面協調作業に適した相互モーショ ンキャプチャ
林 優一	情報科学研究科・教授	モバイル端末からの電磁波を通じた情報 漏えい評価技術の開拓
栗崎 晃	バイオサイエンス研究科・教授	肺再生基盤技術の開発
上久保 裕生	物質創成科学研究科・教授	蛋白質分子複合系を利用した材料開発

③社会人ドクター修学支援

企業に所属している社会人の修学の促進を図るため、入学料と授業料を自己負担して博士後期課程に入学する社会人学生を支援する。

14名（博士後期課程1年生）1, 400千円

(2) 国際交流活動に対する支援

①海外派遣支援

海外の国際会議において、研究成果の発表と情報収集をおこなう博士後期課程学生を支援する。

22名、3, 288千円

(うち、情報科学研究科 8名、バイオサイエンス研究科 7名、物質創成科学研究科 7名)

②外国人留学生支援

教育研究の国際化を推進するため、外国人の留学を支援する。対象者は大学院大学の留学生特別推薦選抜の合格者の中から選考した留学生（博士後期課程）とし、渡日旅費と入学料を支援する。

6名、2, 652千円（うち、旅費支援 960千円／入学料支援 1, 692千円）

(3) 学術研究成果の普及に対する支援

意見交換会や講演会、研究業績報告会、シンポジウムなど、大学院大学の研究成果を広く社会に還元するための取り組みを支援する。

5件、2, 000千円

名称	開催日・場所	代表者	参加対象	助成額
1. IWESep 2. MSR Asia Summit 2017	1. 平成29年11月 東京都内 2. 平成29年11月 京都市内	情報科学研究科 助教 伊原 彰紀	大学生、研究者、 実務者	250千円

International workshop on robust computer vision	平成30年1月13日～14日 奈良先端大	情報科学研究科 准教授 高松 淳	コンピュータビジョン研究に関わる大学・研究機関の教員・学生・研究者	250千円
アジア-ヨーロッパ四校合同シンポジウム	平成29年9月18日～19日(予定) シンガポールテマセック生命科学研究所	バイオサイエンス研究科 教授 伊藤 寿朗	本学の若手を含む教員、研究者及び海外参加大学の研究者、学生	500千円
公開研究業績報告会	平成30年2月 奈良先端大	物質創成科学研究科長 垣内 喜代三	全国の大学生、高校生、中学・高校の理科教諭、社会人、地域住民	500千円
男女共同参画推進シンポジウム	平成29年10月 奈良先端大	男女共同参画室長 中島 潔	本学学生・教職員、他大学・他関係機関・一般市民	500千円

(4) アワード事業

学習や研究に対する意欲を高めるため、学位記授与式において、優秀な成績を修めた学生を理事長名で表彰し、賞金を授与する。

また、教育研究活動で優れた業績を挙げた教員に対する表彰に際し、賞金を贈呈する。

1, 360千円

「NAIST 最優秀学生賞」 14名、840千円 (博士前期課程学生 7名、博士後期課程学生7名)

「ベストティーチング賞」 1名、120千円 (情報科学研究科教員)

「NAIST バイオ学術賞」 1名、200千円 (バイオサイエンス研究科教員)

「NAIST 学術賞」 1名、200千円 (物質創成科学研究科教員)

2. 先端科学技術の普及啓発事業

大学院大学が理念の1つとして「社会の発展や文化の創造に向けた学外との密接な連携・協力の推進」を掲げ、積極的に取り組んでいる、いわゆる産学官の連携推進の活動のうち、当財団は2つの取り組みに関わり、大学院大学支援事業とは別枠で支援を行う。

(1) 産学官交流事業

①奈良先端大発 新産業創出支援事業

大学院大学では「企業や他の大学との共同研究」、「企業からの受託研究」、「企業からの研究者の受け入れ」などを行っているが、これとは別に、研究成果や技術シーズの実用化・製品化を目指して関西地区の中小企業やベンチャー企業と連携して研究開発に取り組む場合に、研究開発費用の一部を支援する。そして、年度末に取り組み成果の報告会を開催する(平成28年度成果報告会は平成29年2月8日に高山サイエンスプラザにて開催)。

4件、4,000千円

大学研究者	連携企業	研究開発テーマ	
情報科学研究科 教授 小笠原 司	(株)フジ医療器	生体機能定量化とマッサージチェアへの応用に関する研究	新規
情報科学研究科 教授 松本 健一	合同会社EASE創研	クラウド型外国語リスニング学習システムの技術開発	新規
物質創成科学研究科 助教 上沼 睦典	北陽電機(株)	パルスレーザーにおけるパルス駆動時の信頼性予測手法の開発	新規
(未定)			

②奈良先端大産学連携フォーラム

先端的で独創的な研究を行っている大学院大学の研究者と産業界の研究者・技術者との交流の場を提供することを目的として、大学院大学、(公社)関西経済連合会および当財団の共催で第32回目となるフォーラムを開催する。フォーラムでは、情報科学研究科・バイオサイエンス研究科・物質創成科学研究科の研究者による最新の研究成果の紹介講演および情報・意見交換会を実施する。開催時期と場所は未定（第31回は平成29年1月30日に関西経済連合会会議室にて開催）。

3. 地域交流事業

(1) 地域交流

先端科学技術に対する地域住民の関心を高めるとともに、高山地区の立地施設と地域住民との相互理解を深めるため、立地施設の共催または当財団単独で交流事業を行う。

①高山サイエンスタウンフェスティバル

高山地区に立地する6施設（大学院大学、参天製薬(株)奈良研究開発センター、上六印刷(株)、(株)Burley plus、(株)芦田製作所、当財団）で組織する「高山地区立地施設等連絡協議会」（事務局は当財団）の主催により、高山地区の振興と地域住民の交流を深めるためのフェスティバルを11月に開催する。

フェスティバルでは、それぞれの施設の公開や様々なイベントが催され、当財団ではオープンギャラリーや広場などをイベントに提供するほか、大学院大学の教官や学生が講師となり、小学生とその保護者を対象に、親子で科学に親しむ「親子科学教室」を実施する。

②NAISTサイエンス塾

大学院大学の教官や学生が講師となり、小学生を対象とした科学実験教室を年間8回（原則第2土曜日）開催する。

③夏休み科学実験教室

夏休み期間中に、奈良県内の大学の研究者などが講師となり、小学生を対象とした科学実験教室を開催する。

④科学に関する絵画展

近隣の市町の小学生から科学をテーマとする絵画を公募し、優れた作品を表彰（理事長賞、優秀賞、入選）するとともに、サイエンスプラザに展示する。

⑤けいはんなプラザ・プチコンサート in 高山

毎月第3月曜日の昼間(12:15～12:45)に高山サイエンスプラザオープンギャラリーで催す若手音楽家による演奏会に対し、6つの立地施設が協賛を行う。

(2) 情報発信

①財団機関誌の発行

「平成28年度に支援した教育研究活動・国際交流活動の成果についての大学院大学からの寄稿」、「平成29年度の大学院大学支援事業の内容」、「平成28年度に行った産学官交流事業と地域交流事業の内容」および「当財団の概要」などを記載した財団機関誌「シーエンス」(CIENCE)第16号を発行する。

発行部数 900部、発行時期 11月

②インターネットによる情報発信

当財団のホームページ(URL:<http://www.science-plaza.or.jp>)において、催事などのお知らせのほか、財団の業務・財務に関する情報を適時公開する。

4. その他の事業

(1) 高山サイエンスプラザおよび高山サイエスタウン駐車場の運営

高山サイエンスプラザ(4階建・総床面積 5,451 m²)は、当財団が行う産学官交流事業や地域交流事業などの活動拠点であり、研究者や市民の交流の場となっている。平日の9時から17時の間開館しており、地元の小学生などの団体の見学に対応している。建物内には2階に交流サロンや研修室、3階に貸事務所、4階に海外からの研究者や学生などのための住戸および大研修室があり、また屋外には「科学する子供たちの広場」や駐車場があり、当財団はそれらの施設の管理・運営を行う。

さらに、携帯電話無線局設置のため、屋上の一部を賃貸し、使用させる。

以上